

2018年9月5日

公益財団法人石橋財団

報道各位

館名変更： ブリヂストン美術館から「アーティゾン美術館」へ

公益財団法人石橋財団（理事長 兼 ブリヂストン美術館館長 石橋 寛）は、2019年7月よりブリヂストン美術館の館名を変更します。新館名は「アーティゾン美術館」（ARTIZON MUSEUM）です。アーティゾン（ARTIZON）は、「ART」と「HORIZON（地平）」からの造語です。2020年1月に開館するアーティゾン美術館は、これまでのブリヂストン美術館から大きく変わります。今回の館名変更は、新たな方向へ踏み出す決意の表れであり、当財団の基本理念である「世の人々の楽しみと幸福しあわせの為に」を実践するために、名実ともに全く新しい美術館を目指します。

■ 新美術館名

アーティゾン美術館 ARTIZON MUSEUM

「目の前に、過去から現在までの様々なアート作品が広がっている。視線が及ぶ果てでは、新しい作品が現在進行形で創造されつつある。そのさらに向こうからは、まだ見ぬ作品が姿を現そうとしている。1952年の開館当時、ブリヂストン美術館は石橋コレクションを公開するとともに、同時代の作品を広く紹介する役割も担っていた。新しい美術館も、過去から現在までアートの世界を見渡すことができ、アートの夢や未来を予感させ、創造性の胎動が感じられる場を目指したい。」

■ 館名変更日 2019年7月1日（予定）

■ 今、なぜ 館名変更なのか？

当館の名称の変更については、40 年ほど前にも検討した経緯があります。
新美術館建設を節目として、美術館活動も含め新たな方向へ踏み出します。

1. ロケーション

美術館の入口が、従来の八重洲通りから銀座中央通りに面することになり、存在感のある美術館へと生まれ変わります。

2. 規模

展示室は 4 階から 6 階の 3 フロアとなり、従来の展示面積の約 2 倍に拡張されます。
それにより、旧美術館では実現できなかった大規模な企画展（特別展）とコレクション展の同時開催が可能となります。

3. コレクション

印象派を中心とするこれまでのコレクションから、古美術、日本近代洋画、20 世紀美術、現代美術にまで大きく視野を拡げています。

■ 4 つの基準から館名を命名しました。

多様性

世代、地域を超えて多様なお客様に対応する。

先取性

「印象派」中心のイメージから脱却し、新しい時代の夜明けを感じさせる。

開放性

既存の枠組みだけでなく、異なるものがぶつかり合うことで創造されるアートの新しい地平を目指す。

国際性

外国人にも理解しやすい名前とし、「ART」「MUSEUM」を入れる。

(資料)

石橋財団について

石橋財団は、優れた企業家で、広く文化事業にも取り組んだ石橋正二郎によって1956年に創設されました。ブリヂストン美術館における美術館事業、芸術・文化・教育活動を支援する寄付助成事業を二本の柱として活動しています。

2012年4月には事業の公益性が認められ、内閣総理大臣より公益財団法人に認定されました。基本理念は「世の人々の楽しみと幸福しあわせの為に」です。

ブリヂストン美術館について

戦前から戦後にかけて日本洋画、西洋絵画の一大コレクションを築き上げた石橋財団創設者石橋正二郎は「コレクションを自分一人だけで愛蔵するよりも、多くの人に見せるため美術館を作り、文化の進歩に尽したい」という考えから、1952年に東京・京橋のブリヂストンビル2階をブリヂストン美術館として一般に公開しました。

ブリヂストン美術館は、開館以来今日にいたるまで、継続的な収集活動によってコレクションの充実をはかるとともに、さまざまなテーマの展覧会の開催、講演会や各種教育プログラムの実施、書籍の刊行を行っています。

■ お問い合わせ

ブリヂストン美術館 コミュニケーション部

〒104-0061 東京都中央区銀座 1-19-7 銀座一丁目イーストビル7階

Tel. 03-3563-0241 Fax 03-3561-2130

E-mail publicity@bridgestone-museum.gr.jp